

# NEWS

ともにめざそう  
環境首都なごや



## 「環境デーなごや2017」報告



メインステージで河村市長らによるオープニングセレモニー

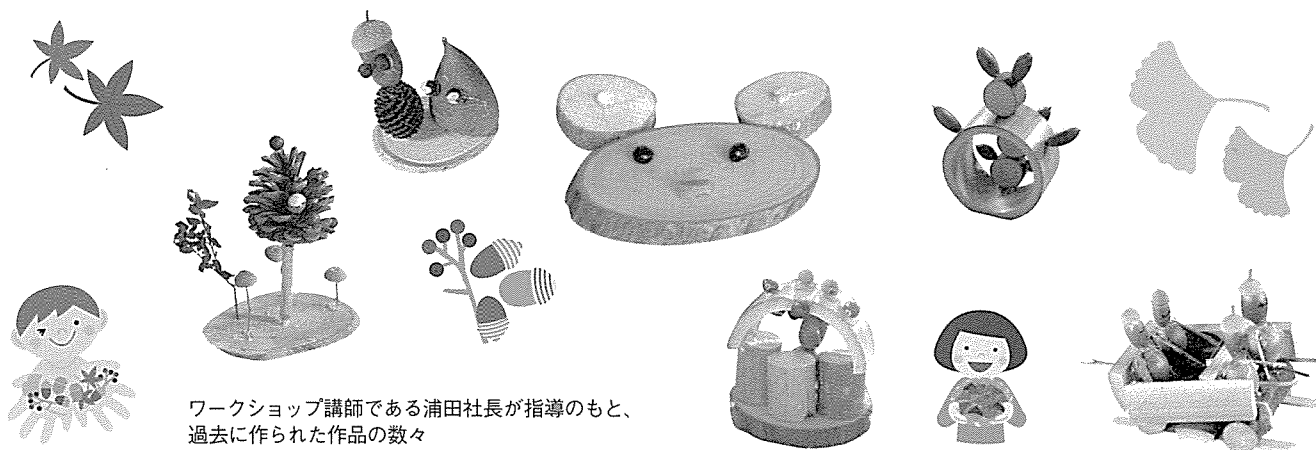
18回目となる「環境デーなごや2017」は、テーマを「身近なエコが未来へ続く」として、持続可能な未来へ向けて、一人ひとりが身近なエコ活動に取り組んでいただけるよう、分野や主体、世代を超えて交流することで、環境について学び合える場を展開しました。会場は、エコライフひろば（久屋広場）、みんなつながる環境ひろば（エンゼル広場）、さんあ〜るひろば（光の広場）、他各所にてイベントが開催されました。

協会事務局は、産業廃棄物の適正な処理及び再生利用のための普及啓発事業の一つとして「環境デーなごや」に協賛し、環境問題に関心が高い来場者に、各展示より廃棄物の適正処理・資源循環、再

生利用等について情報を発信する。また、来場した子どもに自然材料を使用したクラフトコーナーを体験してもらい、「地球環境の保全、自然環境の保護」に対する理解を醸成する。併せて、AELネットのスタンプラリーイベント企画として、来場者にスタンプラリーに参加してもらい、AELネットの環境学習活動をPRする、という趣旨のもと毎年同イベントに協賛しております。

協会の出展ブースはエコライフ広場（名古屋市中区）に設置され、開催日の9月16日（土）は大型台風18号の影響で雨模様でしたが、多くの来場者を迎え環境への意識啓発に貢献できました。またブースには悪天候を心配されて協会理事の方が数名訪れ、開催状況の確認や応援にいらっしゃいました。

恒例となりましたワークショップの体験コーナーは根強い人気があり、当協会員の（株）コスモス・エコ研究所 浦田恵美子社長が講師となり、葉づくりの指導を大人から幼児の参加者の方へレクチャーされました。素材として押し花、広告の切り抜き、浦田氏直筆の短冊等が用意され、その中から好みの素材を選び、ラミネートフィルムにレイアウトして挟み、ラミネーターに通して完成です。



ワークショップ講師である浦田社長が指導のもと、過去に作られた作品の数々



体験コーナーでは小林氏、浦田氏のご協力でも子ども達が作品づくり



また切り絵コーナーは、毎年ご尽力いただいております名古屋市昆虫同好会会員の小林俊光氏のご協力をいただきました。手順は色画用紙を二つに折り、型取られた線に沿ってはさみで切り抜き、折り目を山折り谷折りして立体感を出していくと、本当の昆虫のように今にも動き出しそうな作品が出来上がります。中には完成した作品に色を付け、可愛らしいオリジナルの昆虫に仕上げたお子さんもいました。

工作コーナーでは鬼頭洋子氏にお手伝いいただき、小枝、どんぐり、木の実、松ぼっくり、細い丸太の薄切り、竹の切れ端等を多数用意され、素材選びから迷ってしまうぐらいの品揃えでした。素材は

鬼頭さんが山歩きを楽しむ際見つけて収集したものであり、一つひとつに思い出が詰まっているとのことでした。お子さんとはいえ、作品への創作意欲は大人をしのご熱意が感じられ、イメージ通りに作品として仕上げていく感性は素晴らしく、何個も作品を完成させていく参加者の方もいました。中には、作品作りが始まるとなかなか終われないのか、お子さんの作品完成まで、ご家族が会場を一周り二周りされる微笑ましい光景も見られました。身近な素材が老若男女の方を引き付けるのか、雨が降り込むテントの中は終日賑やかでした。

(一部環境デーなごやHP資料引用)

